

くりかえし



関 治 子

私たちは毎日生活している。くる日もくる日も、くりかえしくりかえし生活している。よくあきもせず、人間とはよほど辛抱強いのか、それとも機能上、こうしたくりかえしのリズムがなくならないのであろうか。

生活の中には基本的なもので、無意識のうちに行動しくりかえしていることと、規則的にオートメーションしながらに行動していることがある。私の朝の目ざめから出発までなどはこの部類であろう。又、いくつかのパターンをとり混ぜてくりかえしている場合がある。これは機能的に考えてしまったので些か味気ないが、そこはよくしたもので、人間には感じ考えるところができる。発見や工夫、おどろき、よろこび、気まぐれ、執念……がある。もちろん失敗もある。

人間を木に例えるならば、こうした生活を規則的にくりかえしている部分が幹であり、発見や工夫などもろもろに吸収しつつ生活している部分が枝や葉とでもいおうか。やがて花の開くこともある。時には折れてしまうこともあるかも知れない。子

どもの中には幹のか細い木もある。又なかなか葉が繁らない木も、葉ばかり繁茂して幹からしっぺ根を張らない木もある。

* * *

ある一本の木の話（四歳入園児）。

彼はある鉢から植えかえられてきた。今、林の中に植えられようとしている。彼はひどく興奮状態で入ってきた。一瞬でも落ちつくことを知らない。皆が腰かけると彼は歩きまわる。鉢を持つと手から離れて部屋の隅にとんでいく。廊下に出ると人にぶつかるなどなど。

しかし何日か経ってみると、彼にはちがう面がみえてきた。

第一はありとの対面である。毎日毎日庭に出てありとあそぶ。毎日ありとの生活をくりかえしている。つかまえる、つぶす、つかまえる、はわせる、水たまりに入れる、袋に入れる、土も入れる。次は、しゃくとり虫を見つけ出した。みつけた木の所へ通う、虫をさわる、手にのせる、はわせる、木の枝に戻す、友だちと話す。ある日姿を消した虫を、まわり中探してい

る。今度は他の幼虫を背の高い木に探す。高い所に手を伸ばして掴まえる、台を探してきてもっと高い所までとどくようにする。いつの間にか古タイヤを重ねている。毎日一緒に同じ木にやってくる腹心の友ができた。雨の日には窓から手のとどく所で虫を探す、虫の出ている本を見る。

こんな彼の日常は、虫の世界にあげくれ、来る日も来る日もくりかえし、ためつすがめつ虫に接している。しかしこうしたくりかえしの中に、虫の興味だけでない、何と数々の枝や葉が出てきたことであろうか。その中で、彼が最も苦手としていた友だちとのふれ合いが、このくりかえし生活の中から生まれる機会が訪れたことは大きな収穫であった。

こうしたくりかえしの生活の中にひたり切ることによって安定感を持ち、はじめのころの人に迷惑をかける行動はおちついてきた。私はそれを見守り、近づく時を持つとした。結局あせってはいけないということだった。ただ今四か月、まだどんな木に育っていくかわからない。でもどうやらひっくり返らずに、何か面白い素敵な姿をみせて林の中に立っている。

* * *

ひとりの子どもだけでも、これだけの姿がある。これも一日中の姿ではない。ほかの子どもたちには、それぞれちがう一日

を過ごす姿がある。私たち教師は一日中、子どもたちと共に過ごし、育てている。知る人ぞ知る、忙がしいとか何かではあられもない生活であろう。相手が育っていくものであるからこそ育てようと努力できることなのである。これは、子どもだけでなく教師としての私を省みても同様である。くりかえしの毎日、くりかえしの毎年である。しかし単なる同じことのくりかえしであつたらどうであろう。

木を育てる時、又自分も木である時、日光や水や肥料をくりかえし与え、与えられる。何をどれだけ、何時与えようかと観知をもつてそれを見つけ出し、実行することこそ大切なのではないだろうか。そしてそこに喜びがある。生きているものなのだから、育てるために迷惑な水をかけてしまつては——その水をひき戻すことはできない。

* * *

今、部屋の中に鉢植がある。一時、風を当て過ぎて黒ずんでしまったポトスは、黒ずんだ葉を落し、水をやり過ぎないようにがまんをして潤らしてみたり……やつと元気がよくなった。ジャスミンは半病人、今や水、日光、風などに気を配り、一喜一憂という所、身につまされている。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)